英国大学院留学日記

News Letter vol.01

発行/2022年12月28日 発行者/宮﨑稔樹 (Toshiki Miyazaki/ロータリー財団グローバル補助金奨学生/国際ロータリー第2740地区)

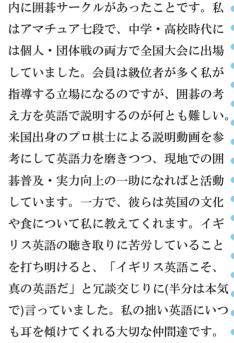
大学院生活の紹介と現地ロータリー支部の訪問

★英国大学院で「メディアと 国際開発」を勉強中!

初めまして。宮﨑稔樹と申します。英 イーストアングリア大学院(UEA)での留 学生活が始まってから3か月が経過しまし た。私が住むノーリッジ(Norwich)は、イ ングランド中部に位置する人口約14万人 の小さな都市です。中世にはイングラン ド最大の城塞都市として栄えており、街 にはノルマン朝からテューダ朝時代にか けての建物や古い教会が多く残っていま す。私がこの場所で学んでいるのは「メ ディアと国際開発」。新聞記者とJICA職 員の経験がある私は、約20人のコースメ イトと紛争や災害などの人道危機が起き た際のメディアの役割などについて研究 しています。学生の出身地域はアフガニ スタンやミャンマー、ロシア、ナイジェ リア、パキスタンなど多様でまさに人種 の坩堝。各学生の実体験を踏まえた議論 は刺激的です。また、開発学の分野で世 界大学ランキングトップ10に入る大学だ けあって、学びに意欲的な学生が多いと 感じます。私自身は授業の予習(英語文 献)や課題に悪戦苦闘しながらも、優秀な 仲間たちと充実した日々を送っています。

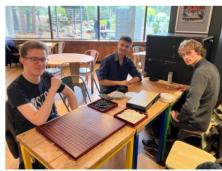
★現地ロータリー支部へ訪問 ★囲碁による国際交流

現地ロータリー支部とも交流を深めて います。10月にはノリッジ支部(マイル ズ・ネービル会長)を初訪問。会員約20人 の支部で、若い会員の新規獲得が課題と のことですが、毎週木曜日の例会では会 員の方が歌を披露するなど活気が溢れて います。担当者のメアリー・ビアード ウッドさんをはじめ、親切な人ばかりで す。11月にはノリッジからバスで1時間 程の場所にあるワットン支部を訪問しま した。40分間の発表の機会を頂き、①長 崎/佐賀について②これまでのキャリア と大学院での研究内容③将来の展望--を中心に話をしました。私が新聞記者と して5年間を過ごした東日本大震災と原発 事故の被災地・福島の現状について多く の質問があり、関心の高さが伺えました。



UEAに来て驚いたことの一つは、大学





緑あふれる広大なキャンパス

UEAには学部生約1万3000人、大学院生約4000人が通っています(留学生は約3000人)。その多くは大学内の寮で生活しているのですが、このキャンパスの広さはなんと300エーカー(東京ドーム約28個分)です。教室間の移動で一番遠い場所だと徒歩で約30分かかるのは難点ですが、、この緑と青空が広がるキャンパスは私のお気に入り。外周約2⁺。の湖もあり、毎朝の散歩(時々ジョギング)が日課です。ウサギやリス、様々な野鳥が生息しており、勉強に疲れた時は、この自然の豊かさに癒されています。



